

# 第9回情勢懇提出資料

2018年4月10日

枝廣淳子

## 提言の全体について

---

### 「暮らし」の視点を大事に

エネルギーは、「産業」にとっても重要であるが、「暮らし」にとっても必要不可欠なものであり、人々や地域の幸せに大きな影響を与える。現在、日本の電力需要のうち、産業用は3割弱、家庭用が3割強、業務用が4割程度であるが、これまでのエネルギー政策はほぼ全面的に「産業向け」であった印象が強い。**産業以外、特に家庭向けのエネルギーへの視点を大事にして、人々が「ワガコ化」して、考え、取り組みができるようにしていく必要がある。**

### 分散型エネルギーシステムの位置づけ

これこそ、今後のエネルギー情勢の核となると考えている。さまざまなエネルギーシステム技術の革新により、**分散型エネルギーシステムが可能になってきたこと、その中で、これまでは「選べなかった消費者」が「選べる」ようになってきたこと、選ぶという可能性をとおして、人々のエネルギーへの向き合い方が変わってきたことが、今後の日本のエネルギー政策の最大の可能性の1つであると思う。その可能性を最大化する政策を求める。**

### 単独のエネルギーシステムを選ぶのではなく、最適な組み合わせを創り出していくこと

上述の分散型と併せて、ひとりひとり、各組織、各地域が「自分たちにとって最適な組み合わせを創り出していく」という、**いわば個別最適化を進めることを促すとともに、それぞれが最適化をめざす個別の集合体である日本全体のエネルギーをどう全体最適化していくか、**が最大のチャレンジであり、可能性のある領域であると考えます。

### エネルギーに関するコミュニケーション・対話を通じた国民の参画

現行のエネルギー基本計画でも謳われている問題意識を、「科学的レビューメカニズム」と同様に、「**エネルギー・コミュニケーション・メカニズム**」として、新しく打ち出すことを考えていく必要がある。少なくとも、その必要性和検討を始めるという姿勢を求める。

## 複線型シナリオと科学的レビューメカニズム

---

- その必要性を訴えるだけでなく、いつ、どのように、「**複線型シナリオ**」を描くのか？「政府や既得権益者にとっての望ましいシナリオを複数描く」のではなく、「**だれかにとってのありたい未来、あるべき未来ではなく、ありうる未来を複数描く**」という正しいシナリオプランニングのプロセスをどう担保するのか？

- アダプタブルに変化させていくべきは「打ち手」であり、大きな方向性は変わらないはず。**状況に応じて変えていくという柔軟性は、しっかりした大きな方向性なしには、日和見主義的なイメージを与えてしまう恐れがある。**それでは投資は呼び込めず、企業も腰を据えて技術開発をすることができない。
- 「科学的レビューメカニズム」は、「エネルギー技術」のみならず、「目標」や「政策」も対象とすべき。その機能は明示されているが、**その主体の透明性・中立性**という必須の要件も盛り込むべき。

## 再エネの位置づけについて

---

- 再エネは「間欠性」という課題が前面に出がちだが、**安定再エネ(地熱、小水力、バイオマス)を増強するというスタンス**を強く打ち出してほしい。たとえば、岡山県の西粟倉村は、地元の森林の端材を利用したバイオマスによる地域熱供給で、地域全体の熱需要の 4 割を満たすとともに、水力発電によって域内の電力需要の 4 割弱を賅っており、現在建設中のもうひとつの水力発電が稼働を始めれば、その割合は 7 割に増える予定。このような安定再エネを分散型エネルギーシステムの中に位置づけることのできる地域は少なくない。国全体で見ても、日本の地熱エネルギーの賦存量は世界第 3 位である。安定再エネの位置づけとそれへの取り組みを明確に打ち出すべき。
- 日本にとって今後の重要な再エネである**洋上風力**も、沖合という地理的条件による風況と多数の風車を配置することでの平準化を考えると、安定再エネに位置づけられないか。また、そう位置づけられるような技術開発を後押しすべきではないか。

## 原子力の位置づけ

---

技術開発のみでは社会的信頼は回復できない。前述のコミュニケーション・対話のためのプロセスとメカニズムを設計し、進めていく必要がある。

核廃棄物の課題に正面から取り組むためのコミュニケーション・プラットフォームが必要ではないか。

補足資料：日本の原発の現状

## 最後に

---

今回の情勢懇の進行を高く評価し、一員として参加できたことに感謝します

- 柔軟な場のつくり方（ラウンドテーブルのレイアウト、委員のカジュアルな意見交換の機会など）
- 委員と事務局が全員でラーニング・ジャーニー（14 人のゲストスピーカーから学ぶ旅）を共有した上で、提言づくりに取りかかったこと（そうでなければ、もともとの立場や持論からの議論に終始する恐れがあったと思う）

ぜひ今後の他の委員会等にも活かしていただけたらと願っています。

2018/4/10現在

所有	原発	号機	運転開始	40年経過	60年経過	再稼働	廃炉	認可出力	熱出力	備考
	月数			14600	21900					
北海道	泊	1	1989/6/22	2029/6/12	2049/6/7			57.9	165	
		2	1991/4/12	2031/4/2	2051/3/28			57.9	165	
		3	2009/12/22	2049/12/12	2069/12/7			91.2	266	
電源開	大間	1					138.3	392.6	建設中	
東北	東通	1	2005/12/8	2045/11/28	2065/11/23			110	329.3	
東京	東通	1								建設中
東北	女川	1	1984/6/1	2024/5/22	2044/5/17			52.4	159.3	
		2	1995/7/28	2035/7/18	2055/7/13			82.5	243.6	
		3	2002/1/30	2042/1/20	2062/1/15			82.5	243.6	
東京	柏崎刈羽	1	1985/9/18	2025/9/8	2045/9/3			110	329.3	
		2	1990/9/28	2030/9/18	2050/9/13			110	329.3	
		3	1993/8/11	2033/8/1	2053/7/27			110	329.3	
		4	1994/8/11	2034/8/1	2054/7/27			110	329.3	
		5	1990/4/10	2030/3/31	2050/3/26			110	329.3	
		6	1996/11/7	2036/10/28	2056/10/23			135.6	392.6	
		7	1997/7/2	2037/6/22	2057/6/17			135.6	392.6	
東京	福島第一	1	1971/3/26	2011/3/16	2031/3/11		2012/4/20	46	138	
		2	1974/7/18	2014/7/8	2034/7/3		2012/4/20	78.4	238.1	
		3	1976/3/27	2016/3/17	2036/3/12		2012/4/20	78.4	238.1	
		4	1978/10/12	2018/10/2	2038/9/27		2012/4/20	78.4	238.1	
		5	1978/4/18	2018/4/8	2038/4/3		2014/1/31	78.4	238.1	
		6	1979/10/24	2019/10/14	2039/10/9		2014/1/31	110	329.3	
東京	福島第二	1	1982/4/20	2022/4/10	2042/4/5			110	329.3	
		2	1984/2/3	2024/1/24	2044/1/19			110	329.3	
		3	1985/6/21	2025/6/11	2045/6/6			110	329.3	
		4	1987/8/25	2027/8/15	2047/8/10			110	329.3	
日本原電	東海	1	1966/7/25	2006/7/15	2026/7/10		1998/3/31	16.6	58.7	
		2	1978/11/28	2018/11/18	2038/11/13			110	329.3	
中部	浜岡	1	1976/3/27	2016/3/17	2036/3/12		2009/1/30	54	159.3	
		2	1978/11/29	2018/11/19	2038/11/14		2009/1/30	84	243.6	
		3	1987/8/28	2027/8/18	2047/8/13			110	329.3	
		4	1993/9/3	2033/8/24	2053/8/19			113.7	329.3	
		5	2005/1/18	2045/1/8	2065/1/3			138	392.6	
北陸	志賀	1	1993/7/30	2033/7/20	2053/7/15			54	159.3	
		2	2006/3/15	2046/3/5	2066/2/28			120.6	392.6	
日本原電	敦賀	1	1970/3/14	2010/3/4	2030/2/27		2015/4/27	35.7	106.4	
		2	1987/2/17	2027/2/7	2047/2/2			116	342.3	
関西	美浜	1	1970/11/28	2010/11/18	2030/11/13		2015/4/27	34	103.1	
		2	1972/7/25	2012/7/15	2032/7/10		2015/4/27	50	145.6	
		3	1976/12/1	2016/11/21	2036/11/16			82.6	244	20年延長

関西	大飯	1	1979/3/27	2019/3/17	2039/3/12		2017/12/22	117.5	342.3	
		2	1979/12/5	2019/11/25	2039/11/20		2017/12/22	117.5	342.3	
		3	1991/12/18	2031/12/8	2051/12/3	2018/3/14		118	342.3	
		4	1993/2/2	2033/1/23	2053/1/18			118	342.3	
関西	高浜	1	1974/11/14	2014/11/4	2034/10/30			82.6	244	20年延長
		2	1975/11/14	2015/11/4	2035/10/30			82.6	244	20年延長
		3	1985/1/17	2025/1/7	2045/1/2	2017/6/6		87	266	
		4	1985/6/5	2025/5/26	2045/5/21	2017/5/17		87	266	
中国	島根	1	1974/3/29	2014/3/19	2034/3/14		<b>2015/4/30</b>	46	138	
		2	1989/2/10	2029/1/31	2049/1/26			82	243.6	
		3						137.3	392.6	建設中
四国	伊方	1	1977/9/30	2017/9/20	2037/9/15		<b>2016/5/10</b>	56.6	165	
		2	1982/3/19	2022/3/9	2042/3/4		2018/3/27	56.6	165	
		3	1994/12/15	2034/12/5	2054/11/30	2016/8/12		89	266	仮処分中
九州	玄海	1	1975/10/15	2015/10/5	2035/9/30		2015/4/27	55.9	165	
		2	1981/3/30	2021/3/20	2041/3/15			55.9	165	
		3	1994/3/18	2034/3/8	2054/3/3	2018/3/23		118	342.3	
		4	1997/7/25	2037/7/15	2057/7/10			118	342.3	
九州	川内	1	1984/7/4	2024/6/24	2044/6/19	2015/8/11		89	266	
		2	1985/11/28	2025/11/18	2045/11/13	2015/10/15		89	266	